



## 安全データシート

## 1. 化学品および会社情報

化学品の名称	エチルオルソトルイジン
製品コード	EoT
会社名	株式会社 三星化学研究所
住所	京都市北区上賀茂北ノ原町 14 番地
担当部門	開発・技術部
電話番号	075-781-1177
緊急連絡電話番号	075-781-1177
FAX 番号	075-701-7227
推奨用途及び使用上の制限	各種染料・医薬中間体

## 2. 危険有害性の要約

## GHS 分類

物理化学的危険性	
引火性液体	区分 4
環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	区分 3
水生環境慢性有害性	区分 3

## GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	警告
危険有害性情報	可燃性液体 長期継続的影響により水生生物に有害

## 注意書き

安全対策 炎や高温のものから遠ざけること。

適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

応急処置 火災の場合には、火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用すること。

保管 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄

物処理業者に委託すること。

### 3. 組成情報及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

化学名又は一般名

N-エチル-2-メチルアニリン

別名

N-エチル-o-トルイジン

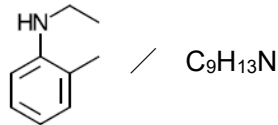
N-エチル-2-メチルベンゼンアミン

2-メチル-N-エチルアニリン

濃度又は濃度範囲

98.5%以上

化学式/示性式



CAS 番号

94-68-8

官報公示整理番号（化審法）

(3)-129、(3)-187、(3)-193

官報公示整理番号（安衛法）

(3)-129、(3)-187、(3)-193

### 4. 応急処置

吸入した場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石けんで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。

予想される急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

吸入した場合：紫色(チアノーゼ)の唇や爪、紫色(チアノーゼ)の皮膚、めまい、頭痛、息苦しさ、息切れ、脱力感。

皮膚に付着：吸収される可能性あり。発赤、紫色(チアノーゼ)の唇や爪、紫色(チアノーゼ)の皮膚。他の症状については「吸入」参照。

眼に付着：発赤、痛み。

経口摂取：紫色(チアノーゼ)の唇や爪、紫色(チアノーゼ)の皮膚、めまい、頭痛、息苦しさ。他の症状については「吸入」参照。

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

ばく露の程度によっては、定期検診を勧める。

この物質により中毒を起こした場合は、特別の処置が必

要である。

---

## 5. 火災時の措置

消火剤	粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	当該製品は分子中にNを含有しているため火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）を放出する。燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。消火活動は風上から行う。火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服(耐熱性)を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	作業には、必ず保護具（手袋・眼鏡・マスク等）を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 少量の場合、吸着剤（土・砂・ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取る。大量の水で洗い流す。 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。 火花を発生しない安全な器具を使用する。 回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密封しておく。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
安全取扱い注意事項	炎や高温のものから遠ざけること。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 火気厳禁。 環境への放出を避けること。
衛生対策	取扱い後はよく手などを洗うこと。
保管	
安全な保管条件	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 火気厳禁。
容器包装材料	データなし。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産衛学会（2010年度版）	未設定
ACGIH（2011年版）	未設定
設備対策	蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	保護眼鏡、保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	
形状	液体
色	うす黄ないしうす茶色
臭い	特有の臭気
pH	データなし
融点・凝固点	-15°C(GESTIS (Access on Jan.2019))

沸点、初留点及び沸騰範囲	222-223°C(株式会社 三星化学研究所 社内データ)
引火点	88°C(Closed cup , GESTIS(Access on Dec. 2019))
蒸発速度 (酢酸ブチル= 1)	データなし。
燃焼性 (固体、気体)	データなし。
燃焼又は爆発範囲	上限 : 5.9 Vol. % (GESTIS (Access on Jan. 2019)) 下限 : 1.2Vol. % (GESTIS (Access on Jan. 2019))
蒸気圧	0.13hPa(20°C) (IUCLID (2000))
蒸気密度	4.67 (同温、同圧の乾燥空気= 1) (GESTIS (Access on Jan. 2019))
密度	0.94g/cm <sup>3</sup> (GESTIS (Access on Jan. 2019))
溶解度	水 : 非常に微量。 アルコール、エーテル、塩化水素に溶ける (弊社の知見)。
n-オクタンール/水分配係数	2.48 (25°C) (IUCLID (2000))
自然発火温度	445°C (GESTIS (Access on Jan. 2019))
分解温度	データなし。
粘度 (粘性率)	データなし。

---

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし。
安定性	情報なし。
危険有害反応可能性	データなし。
避けるべき条件	データなし。
混触危険物質	データなし。
危険有害な分解生成物	データなし。

---

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラットの LD50 値は 2400 mg/kg と報告されている (IUCLID (2000))。GHS 分類 : 区分外 (国連分類基準 : 区分 5)
経皮	データなし。GHS 分類 : 分類できない
吸入 : ガス	GHS 分類 : 分類対象外
吸入 : 蒸気	データ不足。ラットに飽和蒸気圧濃度 (0.722 mg/L) を 7 時間ばく露 (4 時間換算 : 0.955 mg/L) の結果、死亡はなかったとの記述がある (IUCLID (2000))。GHS 分類 : 分類できない

吸入：粉じん及びミスト  
皮膚腐食性及び刺激性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性  
呼吸器感作性  
皮膚感作性  
生殖細胞変異原性

発がん性  
生殖毒性  
特定標的臓器毒性（単回ばく露）  
特定標的臓器毒性（反復ばく露）  
吸引性呼吸器有害性

データなし。GHS 分類：分類できない  
ウサギを用いた試験で刺激性なし。(not irritating)との結果がある (IUCLID (2000))。GHS 分類：区分外  
ウサギを用いた試験で刺激性なし。(not irritating)との結果がある (IUCLID (2000))。GHS 分類：区分外  
データなし。GHS 分類：分類できない  
データなし。GHS 分類：分類できない  
in vivo 試験のデータがなく、分類できない。なお、in vitro 試験として、エーム試験で陰性及び陽性のデータがある (IUCLID (2000))。GHS 分類：分類できない  
データなし。GHS 分類：分類できない  
データなし。GHS 分類：分類できない  
データなし。GHS 分類：分類できない  
データなし。GHS 分類：分類できない  
データなし。GHS 分類：分類できない

---

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性（急性）

水生環境有害性（長期間）

オゾン層への有害性

甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 EC50 = 25.6mg/L (IUCLID, 2000) から区分 3 とした。GHS 分類：区分 3  
信頼性のある慢性毒性データは得られていない。急速分解性がなく (BIOWIN)、急性毒性区分 3 であることから、区分 3 とした。GHS 分類：区分 3  
当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。GHS 分類：分類できない

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

汚染容器及び包装

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。  
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	2754
国連品名	N-エチルトルイジン
容器等級	II
海洋汚染物質	該当しない。
国内規制	
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	消防法・毒劇法の規定に従う。
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
緊急時応急措置指針番号	153

---

## 15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	劇物
消防法	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体
船舶安全法	毒物類・毒物
航空法	毒物類・毒物

---

## 16. その他の情報

参考文献	各データ毎に記載した。
------	-------------

---

### <記載内容について>

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意してください。なお、注意事項については通常の取扱いを対象にしたものですので、特別な取扱いをする場合には、さらに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。